

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270101825		
法人名	(株)ユニマツそよ風		
事業所名	大森台ケアセンターそよ風(かすみ)		
所在地	千葉市中央区大森町250-1		
自己評価作成日	平成24年1月24日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座6-5-12 みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成24年2月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

(株)ユニマツそよ風の「大丈夫 そよかぜがあるから」のスローガンをモットーに「そよ風」なら安心・信頼がある、地域にそよ風があるから大丈夫と言われるようなセンターづくりをしていきたいと思っております。センターの理念の「希望を実現しよう」は利用者様一人一人の希望に沿うように取り組んでいます。外出は、個別にての対応が多く生活の幅を広げられるよう、その人らしく生活できるよう支援していきたいと考えております。近隣の方々とは、野菜を頂いたり、談笑したりとごく自然なお付き合いをさせて頂いております。近隣の保育所にて交流を持ちたり、中学生が福祉体験に来られたりしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「希望を実現しよう」をホームの理念に掲げ、利用者一人ひとりの希望に沿った支援の実現に向け、職員が一丸となり取り組んでいる。今年度は、地域とのつながりも強化され、保育園や小学校からの行事へのお誘いや、保育園の散歩の際には当事業所へ寄ってくれるなどの交流がある。さらに近隣の方が野菜を届けに来てくれたりするなど、地域との交流が深まっている。ホーム内においても利用者の笑顔が多く、職員とも馴染みの関係が構築されている。職員の離職も少なく、職員の働きやすい雰囲気築きながら、接遇向上にも力を入れて取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人ひとりのニーズと意思を尊重し、その人らしく暮らせるよう支援している。職員には、そよ風の理念を唱和することにより共有するべく努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえ、利用者の「希望を実現しよう」との理念をつくり、管理者と職員は、その理念をミーティングや会議で唱和確認し、共有してその実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近隣の方とあいさつを交わすなど、ごく自然なおつきあいをしている。保育園との定期的な交流や、中学生が福祉体験に來られたりしている。震災の時は、町内会長が安否の確認をしてくれて、大変心強く感じている。	事業所自体が地域の一員として自治会に加入し、定期的に会合に出席している。また、保育園や小学校からも行事へのお誘いがあり、保育園の散歩の際には当事業所へ寄ってくれるなどの交流のほか、中学生の福祉体験、専門学校生の実習なども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護教室」等の実施の検討、地域への発信方法を考え中で、実現までには至っていない。地域でのイベントには、積極的に参加するように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催方法、内容についてアンケート調査を行い、できるだけ多くの方々に参加して頂き、意見や要望をもらう事により良いサービスの提供に活かしていこうと考えております。	運営推進会議は年に6回開催し、その開催時には家族の方も参加し、アンケートの実施や、行事を同時に催すといった工夫も図っている。会議では報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1度の介護相談員の来所や運営推進会議にあんしんケアセンターの職員、民生委員の参加にてご意見、助言を頂き役立っている。諸問題の発生時には高齢施設課に報告し協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者と日頃から運営上の相談など連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、連携に取り組んでいる	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のドアは、オートロック式になっているが、出たいときには、いつでも出られるような体制作りをしている。	身体拘束をしないケアの実践を目指して、事業所内に身体拘束廃止委員会(4名)を立ち上げ、3ヵ月に1回開催し、伝達研修によって全職員が参加し、それを正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修に参加する他、センター内でも身体拘束廃止委員会の立ち上げをすることにより職員にも周知している。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し学ぶ機会を設ける取組を進めて、後見人制度について理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間を費やしゆっくりと詳細に説明するよう心掛けている。不安や疑問点に関しては、十分に納得頂けるよう誠実な対応に努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来所時や運営推進会議にてご意見、ご要望を伺いサービスの質の向上に努めています。	利用者や家族が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会としては、面会時や運営推進会議等を通じて把握に努めている。またそれらを運営推進会議の開催時期や会議内容及びサービスの提供に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見には耳を傾け、必要であれば会議にて皆で話し合う機会を設けている。職員アンケートを取ったり定期面談、その都度話し合ったりと聞く機会を設け反映できるよう努めている。	管理者は、職員の意見や提案を聞く機会として、日頃の話し合いはもとより、ミーティング(月1回)、スタッフ親睦会、職員アンケートの実施などを設け、内容を検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表の提出により実績の評価を行う。資格取得や研修参加によりスキルアップ、やりがいの持てる仕事内容、働きやすい職場整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの資質・力量を把握し、良いところを認め、足りない部分を伸ばせるよう指導・教育している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他そよ風のセンターとのネットワーク、交流は勿論、他事業所との交流、情報交換を行う機会を多く作っている。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や不安が伺えるときは、ゆっくりと話を聞ける姿勢と環境作りを心掛け、安心して生活して頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の想いをしっかり受け止める事、想いに馳せる事で少しずつ信頼関係を築いていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の想いや、状態状況をしっかりと見極めたうえで、訪問診療、リハビリ、福祉用具の導入等の対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩としての意識をしっかりと持ったうえで、暮らしを共にする者同士の関係が築けるよう努力している。能力に応じ自立した生活が営めるよう支援していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来所の際は、必ず気が付いた点や、要望を聞くようにしている。担当者会議への参加して頂くことで、本人の日常を伝えたり、ご家族様の想いを知ることが出来る。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古くからの知人が来所してくれたり、手紙を送ってくれたりしている。本人も連絡が取りたいときに電話を掛けたりできる環境作りをしている。	ホームには友人が来訪したり、手紙や年賀状なども良く届く環境にある。また、家族の協力を得て、家族との外出を通じて、馴染みの人や場所との関係を継続する支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握、調整を行っている。職員が間に入ることで良好な関係が築けるよう支援している。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入居された方への面会に行ったり、ご家族様と連絡をとれる体制・関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	想い、希望、不安を日常で察知できるようにしている、職員間で情報の共有をすることにより本人本位の支援を心掛けている。	利用者の思いや意向の把握には、日常の会話から聴取するほか、家族からのご要望から察知するように努めている。困難な場合には、本人の状況に合った支援方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から、今までの生活歴について多く情報を得るようにしている。居宅ケアマネとも連絡を取り経過を追うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、体調管理をしっかり行い生活のリズムを理解するよにしている。できる事できないことを見極め自立支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の開催にて、本人、ご家族様、職員等の意見を収集しケアプランに沿った支援が出来るよう支援している。	家族と相談し、記入したアセスメント表や基本情報から課題やニーズを取り込み、介護計画を作成し、担当者会議に付議し、修正を加えて、家族に説明し、同意を得て、プランを実践する。モニタリング(毎月)を通して、プランの検討、再プランの必要があれば手順を最初に戻してやり直す等現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化、気づきを個別ケース記録に毎日記入している。職員間で情報を共有することで、介護計画の見直しに反映できるよう②している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様のニーズに合わせて個別での外出や外食を行っている。必要な場合には、訪問歯科、訪問リハビリ、訪問マッサージ、福祉用具の訪問販売などのサービスを活用して対応している。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園や幼稚園と交流を図っている。また、自治会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が対応している場合には、日常の様子を伝えることやバイタルチェック表、場合によっては情報提供書をお渡しして通院して頂いている。職員が受診する場合には、電話や近況報告などで情報を提供して了承を得ている。	利用者及び家族の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように協力医療機関とも往診、訪問看護等の連携を図り、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来所した際には、現状を伝えて情報の共有を図るようにしている。御利用者様の変化のあった場合には、対応をどうしたらいいのか相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には職員が交代に病院へ面会に行くようにしている。医師や看護師に話を伺うことで情報を共有し、退院の時期やセンターへの受け入れの対応について相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御利用者様によっては、御家族様が特養への申し込みをしている。終末期をどのように支援したらよいか希望を傾聴している。当センターで終末期を迎える時の対応についても話すようにしている。	早い段階から利用者・家族と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、家族の同意をもって、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。また終末期ケアについては体制が整い、家族の協力が得られれば支援する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で実施している救命救急講座を職員に受講して、緊急時に対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社のマニュアルや防災訓練を行っている。自治会や地域の住民の方にも協力を仰いでいる。	防災訓練は、消防立会いの下、年2回開催している。前回の訓練は、「法定消防設備点検日」と同じ日に実施する等工夫がなされ、近隣住民も参加され、事業者建物のなかの設備や部屋の配置など確認して頂くなど、協力体制が築かれている。	

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴介助、排泄介助の際には特に気を配りプライバシーの保護に努めている。常に人生の大先輩であるという意識を持ち尊厳を重んじた声のかけ方で対応するようにしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないように、日頃から心がけ、研修によって職員一人ひとりが適切な対応を図れるよう確認し、実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様に合わせて声をかけ、意思表示の困難な方には表情を読み取るようにしている。飲み物のセレクト等自己決定できるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや家事など、その日の体調や希望を伺って参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御利用者様に応じて、髪を梳かすブラシ、整髪剤、ピン止め、化粧品、化粧水、乳液を用意している。髪染めの希望には訪問理美容でおこなっている。男性の御利用者には、髭剃りを用意して身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りや後片付けを行っている。食事は、音楽をかけ、一緒にテーブルで会話を楽しむようにしている。郷土食を取り入れたり、外食にも出かけたりしている。	食事の準備には、利用者にも声をかけ職員と一緒に取り組めるように支援している。食事の工夫では、外食や行事の際には出張寿司の実施など、利用者の要望も踏まえながら、各種取り組みより楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士が作成した献立で栄養バランスの摂れた食事の提供をしている。状態に合わせおかゆ、刻み、ミキサー食、ソフト食にての対応をしている。水分の摂れにくい方には寒天を提供し摂取量は記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。義歯の方は就寝時に洗浄剤を使用している。ブラッシングの困難な方には歯磨きティッシュを使用し口腔内を清潔に保っている。ご家族様と相談の上、訪問歯科も取り入れている。		

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失敗する前のトイレ誘導を心掛けトイレでの排泄を支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況は「排泄チェック表」に記録し、習慣を把握して、定時の声かけ、誘導によりトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や食生活に乳製品、果物を多く取り入れるようにしている。レクでの体操や散歩等の運動の機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯はある程度きめているが、希望のある方は毎日入浴可能である。入浴が楽しめるように入浴剤も何種類か用意してある。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。入浴中は安全に入浴できるように支援し、入浴の拒否が見られる際は、無理な入浴は避けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度に身体を動かす事により夜間ゆっくりと眠れるようにしている。なかなか寝付けない時は、温かい飲み物と環境作りの工夫に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表ファイルの利用で現在服薬している薬がわかるようにしている。薬の変更時には細かく観察し変化を記録しDrに伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野で力が発揮できるようにしている。役割を持つことで		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や近くのスーパーに買い物に出かけている。季節ごとに花見や夏祭りに出かけたり、本人の希望により個別にて映画や美術館に行ったりしている。	一人ひとりの希望に沿って、映画や美術館に鑑賞に出かけられる体制づくりがなされており、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら美容室や馴染みの場所に出かけられるように支援している。	

大森台ケアセンターそよ風(かすみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から預かったお金を自己管理し、お孫様へおこずかいを差し上げるのを楽しみにされている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	古くからの友人からの手紙のやり取りや面会を楽しまれたり、本人が自由に電話がかけられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先は季節の花を絶やさない様にしている。フロアーにソファを置きゆっくりとくつろげるようにしている。季節の装飾、室温管理や清潔の保持にも心掛けている。	共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて花や装飾品で飾られ、居心地よく過ごせるように配慮している。廊下やトイレも清潔に保たれ、かつ整頓され歩行などの安全面も配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭にベンチやテーブルを置いて癒しの場を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持ち込まれ、朝、夕と手を合わせられる方や、自宅で使用していたベッド、置物等馴染みの物を持ち込まれている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具やベッド、布団等、また、好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような配置を工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター内はバリアフリー対応、必要な箇所には手すりを設置し、安全確保と自立支援を心掛けている。		